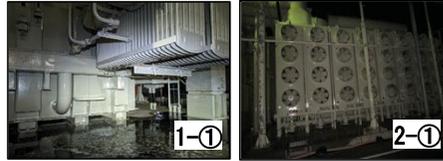


## 【変圧器関連】

### ○絶縁油漏れ等

1号機起動変圧器（1-①）および2号機主変圧器（2-①）に絶縁油の漏れ等が発生したが、漏れた絶縁油について回収済み。  
また、2号機主変圧器の噴霧消火設備の作動により飛散し、その後の降雨で側溝等を通じ前面海域に流れた絶縁油（共-③）についても処理・回収済み。



その後、再び前面海域に絶縁油が流出したことを受け（1月10日お知らせ済）、海岸部へのオイルフェンスの設置、側溝の油吸着マットの設置方法の改善等を実施するとともに、監視強化を継続中。

1、2号機とも予備電源変圧器により外部電源から受電している。また、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。

⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。

## 【外部電源関連】

### ○系統確保数

2号機主変圧器が使用できないことおよび中能登変電所のガス絶縁開閉装置（GIS）に一部損傷があることから、志賀原子力発電所への外部電源5回線のうち2回線が使用できないが、3回線が使用可能である。

なお、66kV 1回線で確認された碍子の欠損、ジャンプ線の素線切れについては、交換作業を実施済み。（1月13日お知らせ済）

また、非常用の電源として、非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。

⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。（共-④）

## 【低圧タービン関連】

### ○タービン「伸び差大」警報

停止中の2号機低圧タービンにおいて「伸び差大」警報が発生した。

⇒タービンの停止中に発生したものであり、原子力安全の確保に影響はない。（2-③）

## 【使用済燃料貯蔵プール関連】

### ○プール水の飛散

1号機、2号機使用済燃料貯蔵プール水が波打ち現象（スロッシング）により床面に飛散したが、飛散した量はわずかであり、プール水位への影響および外部への放射能の影響はない。なお、飛散水についてはふき取り済み。

⇒プール水位はほとんど変化しておらず、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。（1-②、2-②）

### ○プール落下物

2号機使用済燃料貯蔵プール内に保管してあった原子炉冷却材再循環ポンプの検査装置の一部がプール底部に落下していることを確認した。

⇒落下物は軽量であり、燃料から離れた位置に落下したことから使用済燃料への影響はない。（2-④）

## 【非常用ディーゼル発電機の停止（1月17日お知らせ済）】

1月16日に発生した志賀町震度5弱の地震後の保安確認措置として1号機高圧炉心スプレィディーゼル発電機の試運転を実施したところ、自動停止した。

1号機は現在、外部電源3回線を確保しており、また、2台のディーゼル発電機の健全性を確認済み。

⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。（1-⑨）



## 【冷却水・補給水関連】

### ○水位低下

1号機タービン補機冷却水系サージタンク、純水タンクの水水位低下が確認されたが、いずれも原因を特定し水位低下は停止。

⇒漏えいのあった範囲は、冷房用の冷却水や分析機器の洗浄等に使用する部分であり、原子力安全の確保に影響はない。（1-③、1-⑤）

## 【変圧器関連】

### ○放圧板・放圧弁動作

1号機主変圧器、所内変圧器、2号機励磁電源変圧器の放圧板および放圧弁の動作が確認されたが、正常動作であり問題なし。

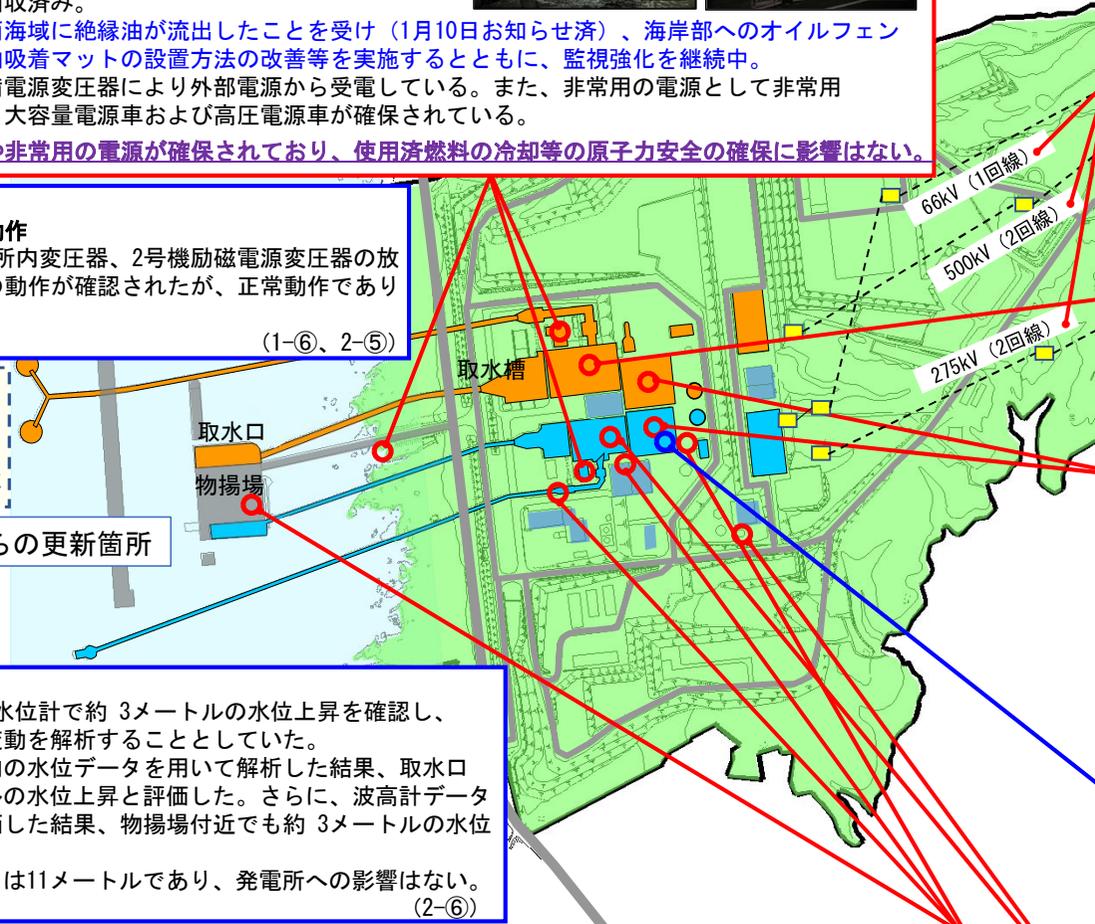
(1-⑥、2-⑤)

## <凡例>

— : 被害状況

— : その他情報

青字は1月9日からの更新箇所



## 【津波関連】

2号機取水槽内の水位計で約3メートルの水位上昇を確認し、海域における水位変動を解析することとしていた。

その後、取水槽内の水位データを用いて解析した結果、取水口付近で約3メートルの水位上昇と評価した。さらに、波高計データを収集・分析・評価した結果、物揚場付近でも約3メートルの水位上昇を確認した。

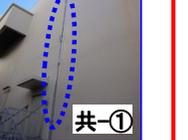
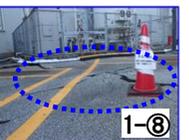
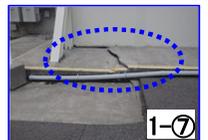
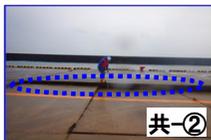
発電所の敷地高さは11メートルであり、発電所への影響はない。（2-⑥）

## 【建物・敷地内道路関連】

### ○地盤沈下、傾き等

物揚場埋立部のコンクリート舗装（共-②）、1号機放水槽および1号機補機冷却排水連絡槽防潮壁の基礎（1-⑦）、1号機高圧電源車使用箇所付近（1-⑧）に地盤沈下、1号機放水槽防潮壁に傾き（1-④）、1、2号機廃棄物処理建屋エキスパンションジョイントシールカバーの脱落（共-①）が発生した。

⇒いずれの設備においても必要な機能を満足するとともに、被害は軽微であり、安全および使用上の支障なし。



「令和6年能登半島地震」により、一部設備に被害が発生しましたが、外部電源や必要な監視設備、冷却設備および非常用電源等の機能を確保しており、原子炉施設の安全確保に問題は生じておりません。

**2号機 使用済燃料貯蔵プール**  
1月23日撮影

**2号機 非常用ディーゼル発電機**  
1月23日撮影

**66 kV 赤住線**  
1月22日撮影

**1号機 使用済燃料貯蔵プール**  
1月22日撮影

**大容量電源車**  
1月23日撮影

**高圧電源車**  
1月23日撮影

**緊急時対策棟**  
増設緊急時対策所  
1月22日撮影

**指揮エリア**  
1月22日撮影

**構内道路**  
1月23日撮影

**1号機 非常用ディーゼル発電機**  
1月23日撮影

**275 kV 志賀原子力線**  
1月22日撮影

<凡例>

- : 電源関係
- : 使用済燃料貯蔵プール
- : その他

66kV (1回線)  
500kV (2回線)  
275kV (2回線)

# 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

※青字下線箇所が1/9公表以降の更新箇所

(対応予定時期については精査中)

※黄色ハッチング箇所は対応完了済み (応急措置については全て完了済み)

志賀原子力発電所1号機

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
1-①	2024/1/2	1号機 起動変圧器からの油 漏れおよび放圧板の 動作、噴霧消火設備の 起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>変圧器の絶縁油※が約3,600リットル(推定)堰内に漏えいしたことを確認。 ※保有量:52,200リットル(変圧器本体:42,000リットル)</li> <li>地震発生時に放圧板が動作したことを確認。</li> <li>噴霧消火設備を手動起動。</li> <li>予備電源変圧器に切替え、赤住線(66kV)より受電中。2号機の所内電源系統からの融通により、志賀原子力線(275kV)からも受電可能。また、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。</li> </ul> <p>⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月2日に雨水等を含めると約4,200リットル回収済。</li> <li>絶縁油が漏えいしている放熱器の仕切弁を閉止するとともに、雨水浸入を防止するための養生を実施。また、他の放熱器も余震による損傷で絶縁油が漏えいするのを防止するため、仕切弁の閉止を実施。</li> <li><u>1月末までに絶縁抵抗測定等の機能試験を実施予定。</u></li> <li><u>動作した放圧板および点検の結果損傷がみられたコンサベータのゴム袋について、2月末までに、新品を製作し取替を実施予定。</u></li> <li><u>点検の結果割れが生じた放熱器を切離し、出力抑制したうえでの仮復旧の可否について検討する。</u></li> <li><u>損傷した放熱器について、今後、新品を製作し取替を実施予定。</u></li> </ul>
1-②	2024/1/2	1号機 使用済燃料貯蔵プール水の飛散	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料貯蔵プールの波打ち現象(スロッシング)を確認。</li> <li>飛散した量は約95リットル(プール水位低下量は0.8mm相当)、放射エネルギーは約17,100Bq、外部への放射能の影響はなし)</li> </ul> <p>⇒プール水位はほとんど変化しておらず、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月4日にふき取り実施済。</li> <li>現在、使用済燃料を安定して冷却中。</li> </ul>

## 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
1-③	2024/1/2	1号機 タービン補機冷却水系サージタンクの水位低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋、タービン建屋の換気空調系の冷却コイルから冷却水が漏えいし、水位が低下していることを確認。</li> <li>⇒冷房用の冷却水であり、原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弁を閉止し水位低下停止を確認済。</li> <li><u>・換気空調系の冷房が必要となる夏季までに損傷した冷却コイルの補修を実施予定。</u></li> </ul>
1-④	2024/1/2	1号機 放水槽防潮壁の傾き	<ul style="list-style-type: none"> <li>1号機放水槽の周囲（全周約108m）に津波対策として自主的に設置した鋼製の防潮壁（高さ4m）の南側壁が、地震の影響により数cm程度傾いていることを確認。</li> <li>⇒変形は軽微であり、機能に影響はない。なお、その他の側壁に傾きはみられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放水槽防潮壁とコンクリート基礎部との間で確認された隙間に土嚢を設置。</li> <li><u>・今後、沈下量等について詳細調査を行い、その結果をもとに来年度中に復旧予定。</u></li> </ul>
1-⑤	2024/1/2	1号機 純水タンク水位低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>純水タンクの水位が、毎分7.3リットル程度（438リットル/時）で低下していることを確認。</li> <li>漏えい量は純水の製造能力（20,000リットル/時）に比べてわずかであった。</li> <li>⇒純水タンクの水は分析機器の洗浄等に使用するものであり、原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏えいしている屋外の埋設配管を特定。弁を閉止し水位低下停止を確認済。</li> <li><u>・漏えいのみられた配管の供給先の純水は別の手段にて供給しており、来年度中に漏えい箇所の補修を実施予定。</u></li> </ul>
1-⑥	2024/1/5	1号機 所内変圧器および主変圧器の放圧板の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生時に1号機所内変圧器および1号機主変圧器の放圧板が動作していたことを確認。（地震により変圧器内部の油が揺れることで、内圧が一時的に上昇し、放圧板が正常に動作したものであり、この事象に伴う油漏れはないことを確認）</li> <li>⇒所内変圧器および主変圧器の放圧板の動作が確認されたが、正常動作であり、問題なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>・2月末までに目視点検を実施。</u></li> <li><u>・動作した放圧板は、来年度上期までに、新品を製作し取替を実施予定。</u></li> </ul>

## 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
1-⑦	2024/1/5	1号機 放水槽および1号機補機冷却排水連絡槽防潮壁の基礎の沈下発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号機放水槽および1号機補機冷却排水連絡槽の周囲に津波対策として自主的に設置した鋼製の防潮壁（高さ4m）の基礎の一部が、地震の影響により数cm沈下していることを確認。</li> <li>⇒防潮壁本体の一部の傾き（1-④）を除き異常がなく、また沈下部分に生じた数cmの隙間についても土嚢による閉塞を完了していることから、現時点で機能に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放水槽防潮壁とコンクリート基礎部との間で確認された隙間に土嚢を設置。</li> <li>・<u>沈下量等について詳細調査を行い、その結果をもとに来年度中に復旧予定。</u></li> </ul>
1-⑧	2024/1/5	1号機 高圧電源車使用箇所付近の段差発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号機高圧電源車使用箇所付近の道路に数cm程度の段差が発生していることを確認。</li> <li>⇒高圧電源車は、近傍の別の場所に配置しても支障なく対応できるため影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該エリアについて、立入制限についての区画表示を実施中。</li> <li>・<u>段差が発生したアスファルトの再舗装を来年度上期までに実施予定。</u></li> </ul>
1-⑨	2024/1/17	1号機 <u>高圧炉心スプレイディーゼル発電機の試運転中における自動停止</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>1月16日に発生した志賀町震度5弱の地震後の保安確認措置として、ディーゼル機関を起動し、発電機を所内電源系統に接続する試運転をしていたところ自動停止した。</u></li> <li>なお、<u>1月1日に発生した志賀町震度7の地震を受けた試運転（1月4日実施）では異常はなかった。</u></li> <li>⇒<u>外部電源3回線（赤住線（66kV 1回線）および志賀原子力線（275kV 2回線））を確保しており、1号機非常用ディーゼル発電機3台のうち2台は健全であることから電源供給に影響はない。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>ディーゼル機関が自動停止した要因の詳細調査として、「発電機逆電力継電器動作」と「ディーゼル発電機ロックアウトリレー断線」の警報が発生した要因について調査を実施中。</u></li> </ul>

## 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

志賀原子力発電所2号機

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
2-①	2024/1/2	2号機 主変圧器からの油漏れおよび噴霧消火設備の起動、放圧板の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変圧器の絶縁油※が約3,500リットル（推定）堰内に漏えいしていることを確認。 ※保有量：122,500リットル（変圧器本体：122,500リットル）</li> <li>・噴霧消火設備の自動起動、放圧板が動作したことを確認。 （火災の発生はないことを確認）</li> <li>・予備電源変圧器に切替え、志賀原子力線（275kV）より受電中。所内電源系統の切替により、赤住線（66kV）からも受電可能。また、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。 ⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月5日に油約19,800リットル（推定）回収済。（雨水等を含めると約24,600リットル。回収量訂正（1月5日））</li> <li>・絶縁油が漏えいしている放熱器の仕切弁を閉止するとともに、雨水浸入を防止するための養生を実施。また、他の放熱器も余震による損傷で絶縁油が漏えいするのを防止するため、仕切弁の閉止を実施。</li> <li>・<u>比率差動継電器が動作していることに加え、油中ガス分析にて変圧器の内部故障の兆候が確認されたことから、1月末までに低圧電気試験、2月中旬に内部点検を実施し、その結果から放圧板を含め変圧器の修理方法について検討予定。</u></li> <li>・<u>油漏れの原因となったNo.11冷却器上部配管接続部の損傷に関して更なる調査を行う予定。</u></li> </ul>
2-②	2024/1/2	2号機 使用済燃料貯蔵プール水の飛散	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済燃料貯蔵プールの波打ち現象（スロッシング）を確認。</li> <li>・飛散した量は約326リットル（水位低下量は1.3mm相当）、放射エネルギーは約4,600Bq、外部への放射能の影響はなし） ⇒プール水位はほとんど変化しておらず、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月3日にふき取り実施済。</li> <li>・現在、使用済燃料を安定に冷却中。</li> </ul>
2-③	2024/1/2	2号機 低圧タービンにおける「伸び差大」警報発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の揺れにより「伸び差大」の警報発生。 ⇒タービンの停止中に発生したものであり、原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>タービンの健全性確認方法についてメーカーと検討を行い、その後、速やかに開放点検を行い、タービンの損傷状態を確認の上、補修および復旧を実施予定。</u></li> </ul>

## 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
2-④	2024/1/2	2号機 使用済燃料貯蔵プール 落下物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2号機使用済燃料貯蔵プール内に保管してあった原子炉冷却材再循環ポンプの検査装置の一部が使用済燃料貯蔵プールの底部に落下していることを確認。</li> <li>⇒落下物は軽量（ポリエステル製）であり、燃料から離れた位置（約4m）に落下したことから使用済燃料への影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<a href="#">メーカーと落下物の回収方法等について検討を行い、今年度中に落下物を回収する予定。</a></li> </ul>
2-⑤	2024/1/3	2号機 励磁電源変圧器の放 圧弁の動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変圧器上部にある放圧弁の動作により導油管を通じて変圧器の絶縁油 約100リットル（推定）が堰内に排出されたことを確認。 （地震により変圧器内部の油が揺れることで、内圧が一時的に上昇し、放圧弁が正常に動作したもの）</li> <li>⇒励磁電源変圧器はプラント運転時に使用する変圧器であり、原子力安全の確保に影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月5日に油約100リットル回収済。</li> <li>・<a href="#">3月末までに絶縁抵抗測定等の電気試験および動作した放圧弁について新品を製作し取替を実施予定。</a></li> </ul>
2-⑥	2024/1/3	2号機 取水槽内の海水面の 上昇	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月1日の発電所のデータの再確認により、2号機取水槽内の海水面が通常より約3m上昇していたことを確認。</li> <li>⇒発電所の敷地高さ11mの地点に高さ4mの防潮堤・防潮壁を設置しており、約3mの上昇による発電所設備への影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2号機取水槽内の水位計で約3mの水位上昇を確認し、海域における水位変動を解析することとしていた。その後、取水槽内の水位データを用いて解析した結果、取水口付近で約3mの水位上昇と評価した。</li> <li>さらに、波高計データを収集・分析・評価した結果、物揚場付近でも約3mの水位上昇を確認した。</li> </ul>

# 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

志賀原子力発電所1、2号機共通

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
共-①	2024/1/2	1, 2号機 廃棄物処理建屋エキ スパンションジョイ ントシールカバーの 脱落	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号機廃棄物処理建屋と2号機廃棄物処理建屋を接続するゴム製のシール部材（エキスパンション）を覆う金属製のカバーが脱落していることを確認。また、当該のシールカバーはシール部材の劣化防止用の部品である。</li> <li>⇒シール部材自体に損傷はなく、外部への放射能等の影響がないことを確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>4月までに脱落したカバーの補修を実施予定。</u></li> </ul>
共-②	2024/1/5	物揚場埋立部の舗装 コンクリートの沈下 発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物揚場の埋立部において、地震の影響により舗装コンクリートが沈下し、段差が発生していることを確認。</li> <li>⇒物揚場の構造自体に問題なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>沈下測定等の詳細計測調査を1月末までに実施後、来年度の荷揚げ作業（低レベル放射性廃棄物等）に備え来年度上期までに復旧予定。</u></li> </ul>
共-③	2024/1/7	発電所前面の海面上 での油膜確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志賀原子力発電所前面の海面上に、油膜（約5m×10m）が浮いていることを確認。</li> <li>・1月1日の地震時に変圧器絶縁油の漏えいが発生した際の噴霧消火設備の作動により飛散し、その後の降雨で側溝等を通じ前面海域に流れた絶縁油と推定される。</li> <li>⇒漏えい油は中和、回収等を行い、環境への影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月7日に中和剤等による油膜の処理を実施。</li> <li>・発電所全域について油の漏えい等がないことを確認済。（1月7日）</li> <li>・オイルフェンスを設置するとともに、側溝等に油がないか重点的な確認を継続する。</li> </ul>
	<u>2024/1/10</u>	<u>発電所前面の海面上での油膜確認</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>2号機主変圧器周辺の側溝に油膜が確認され、その下流側の確認により、前面の海面上に、油膜（約100m×30m、推定約6リットル）が浮いていることを確認。</u></li> <li>⇒<u>海岸部にオイルフェンスを設置したことから環境への影響はない。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>側溝に設置した油吸着マットの設置方法の改善および監視頻度増加による監視強化を継続中。</u></li> <li>・<u>側溝下流に設置される雨水用の排水ゲートのレベルおよび海上のオイルフェンスの設置状況について24時間体制で監視強化を継続中</u></li> <li>・<u>1月14日に2号機主変圧器堰内の碎石除去を開始（油流出の原因調査のため）</u></li> </ul>

# 発生事象および現時点までの対応状況

[2024年1月24日現在]

No.	公表日	件名	事象概要	対応状況
共-④	2024/1/9	外部電源の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 志賀原子力発電所に繋がる送電線の点検を行い、以下を確認。 (志賀原子力線 275kV 2回線)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異常なし</li> </ul> </li> <li>(赤住線 66kV 1回線)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 送電線の絶縁用の碍子の欠損(1箇所)、ジャンパ線(鉄塔前後の碍子装置間をつなぐ電線)の素線切れ(1箇所)が確認されたが、現時点で送電線の機能に問題なし。 [No.5 鉄塔: 6個のうち1個欠損] [No.3 鉄塔: 素線 30本中5本断線]</li> </ul> </li> <li>(志賀中能登線 500kV 2回線)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中能登変電所内のGIS(ガス絶縁開閉装置)のブッシング(絶縁用の碍管)の破損、送電線の絶縁用の碍子の欠損(2箇所)を確認。 [2号線開閉所引留鉄構: 53個中4個欠損] [1号線No.2 鉄塔: 36個中1個欠損]</li> <li>・ 志賀中能登線は2回線中1回線が使用可能であるが、2号機主変圧器が使用不可であり、受電できない。</li> </ul> </li> <li>・ 志賀原子力発電所の外部電源が3回線(志賀原子力線1号線、志賀原子力線2号線、赤住線)となっているが、1, 2号機それぞれに電源供給が可能である。 また、非常用の電源として非常用ディーゼル発電機、大容量電源車および高圧電源車が確保されている。</li> </ul> <p>⇒必要な外部電源や非常用の電源が確保されており、使用済燃料の冷却等の原子力安全の確保に影響はない。</p>	<p>(赤住線 66kV) <u>1月13日(土)に欠損した絶縁用の碍子(1箇所)および素線切れのジャンパ線(1箇所)の交換を実施。</u> <u>なお、この作業に伴い1号機については、2号機からの所内電源融通により志賀原子力線(275kV 2回線)に切り替え実施。</u></p> <p>(志賀中能登線 500kV) 今後、適切な時期に補修および取替予定。</p>